



能勢高校ニュースレター

第79号 H.26. 12月発行

創立60周年記念式典

11月29日(土)、浄るりシアターにおいて、大阪府立能勢高等学校創立60周年記念式典が開催されました。第一部記念式典は、長尾同窓会副会長による開式の辞に始まり、国歌斉唱、校歌斉唱、学校長式辞に続き、大阪府教育委員会丸岡教育振興室長、山口能勢町長、上島府議会議員、前田府議会議員より祝辞をいただきました。さらに、来賓紹介、祝電披露を行った後に、芝実行委員長挨拶、伊藤PTA会長挨拶に続いて、生徒会長の大成さんが生徒代表喜びの言葉を述べました。そして、尾崎能友会長による記念事業披露の後に、八木能友会副会長による閉式の辞でおひらきとなりました。60周年の記念行事にふさわしい厳粛なムードの式典となりました。

引き続き、第二部記念行事では、まず初めに生徒クラブ活動発表として、軽音楽部・ダンス部・空手道部がそれぞれ演奏、ダンスパフォーマンス、演武を行い、会場を盛り上げました。そして記念式典の最終行事として、陸前高田市長戸羽太氏より「陸前高田市の復興状況と課題、そして希望ある未来へ」という演題で講演をしていただきました。震災時におけるご自分の家族の状況等ご自身に関わるお話や、陸前高田市の具体的な復興状況と課題から、人生における夢の実現についてのお考えに至るまで、主に高校生に向けての話として、熱心に語っていただきました。講演後の質疑応答では、10月末の「東日本大震災復興支援プロジェクト 能勢米百俵 支援事業」に参加した生徒数名より、陸前高田市で復興のシンボルである「奇跡の一本松」等を見学して感じたことをふまえた質問があり、戸羽市長より丁寧なお返事をいただくことができました。

大成生徒会長の、生徒代表喜びの言葉



戸羽市長による講演会



左から、軽音楽部、ダンス部、空手道部



能勢地域小中高一貫教育・連携型中高一貫教育 第12回 研究発表会

11月21日(金)、町立東中学校において、能勢地域小中高一貫教育・連携型中高一貫教育 第12回研究発表会が開催されました。

公開授業の部では、「中学3年生能勢高生に学ぶ会」が行われ、東中出身の能勢高3年生が、「先輩は語る」という中学3年生向けの授業で、発表を行いました。「高校生活」、「中学3年の時を思い出して」、「中学生へのメッセージ」をタイトルに、中川拓未さん、中垣内沙恵さん、瀬川幸永さん、苺田萌衣さんがそれぞれの思いを語ってくれました。将来に対する考え方がしっかりしており、中学生も話に聞き入っていました。また、中学校の先生方に3年間の成長ぶりを披露することができました。

中学生たちに語る能勢高校生



秋田県東瀬村教育長 鶴飼 孝さんの講演「共に学び合う教育」は、村に1校だけの小学校・中学校の教育実践について話をいただきました。

中学1年生 授業見学 ～能勢高校の実際の授業を見学～

11月11日(火)に、東中学校、西中学校1年生全員参加による能勢高校授業見学会を実施しました。東中21名、西中学75名が6班に分かれて高校1年から3年までの授業を、2時間かけて見学しました。1時間は本校で座学を中心とした授業の見学、1時間はバスで移動して農場の授業を見学しました。少人数展開の授業が大半で、見学に入っていく中学生の方が人数が多い場合もたくさんありました。高校生が熱心に授業を受けている様子に、中学生も緊張した様子でした。中には、先生と生徒が1対1で行っている授業もあり、中学生には驚きであったようです。

午後からは、両中学の交流のための球技大会を、体育館で行いました。

「社会と情報」

コンピューター実習



「物理」3年生生理系の授業



UNESCO ユネスコスクール世界大会 高校生ESDフォーラム ～ユネスコクラブ～

11月5日(水)～11月7日(金)の3日間、岡山市のホテルグランヴィア岡山に世界各地から32ヶ国の高校生が集まり、「ユネスコスクール世界大会 高校生フォーラム」が開催されました。本校からは2年生1名と1年生5名が参加し、大阪・岡山の他のユネスコスクール生徒たちと協力して会議の運営に携わり、フォーラムを成功に導きました。

5日午後には直前準備の後で、諸外国高校生を交えた顔合わせとオープニングが行われ、6日午前には世界各国と日本各地の代表高校生によるプレゼンテーションが行われました。6日午後からは、そのプレゼンテーションを踏まえたうえで、持続発展可能な社会を作り出すために必要なことについてのディスカッションが行われました。さらにその夜には岡山市主催の歓迎セレモニーが、岡山シンフォニーホールで行われました。最終日7日の午前には、総括セッションが行われ、昼からは各国代表高校生による共同宣言の起草と、それと並行して、岡山コンベンションセンターで小学生との交流が行われました。この日の午後の最後には、全員が全体会場に戻り高校生共同宣言を協議採択し、会議は無事終了しました。



世界大会の横断幕
(岡山市内商店街にて)



岡山とルーマニアの高校生による
開会宣言



各国プレゼンテーション

土曜日講習会「よのなか科」 ～中学生参加 合同授業～

10月11日(土)から西、東中学校3年生が、能勢高校で学ぶ土曜日講習会(全12回)が始まりました。今年度は、中学生を対象とする能勢高校の先生による国語、数学、英語の授業と、中学生が能勢高生と一緒に能勢町教育コーディネーターである藤岡慎二さんの「よのなか科」の授業を行っています。

1、2時間目は、中学生は国数英の授業を、能勢高生は「よのなか科」の授業を受け、3、4時間目には「よのなか科」の授業を中学生と能勢高生が一緒に受けています。能勢高生は、中学生のメンター(助言役)として、グループディスカッションを



藤岡さんと振り返りミーティング

リードします。「よのなか科」は“制服の問題～あなたは制服派?私服派?”“ケータイとどう付き合う?”など、世の中の答えのない問題に対して議論し、「納得解」を得ていきます。これからの社会に必要な「考える力」、「プレゼンテーション能力」を養います。回を重ねるたびに中高生は熱心に議論を深め、新たな発想も生まれ、確実に力がついてきています。

命の大切さを学ぶ作文コンクール

12月3日(水)に、能勢町豊能警察署において「命の大切さを学ぶ教室作文コンクール表彰式」が開催されました。これは7月15日に大阪府警察本部総務部・豊能警察署・大阪府政策企画部青少年地域安全室治安対策課・少年犯罪被害当事者の会の協力で行われた市原千代子氏の講演会を聴講した1年次生のうち優秀作文を書いた本校生徒3名を含め、能勢町内の中高生が表彰されたものです。



豊能町長賞を受賞した芦田純平君は、授賞式でいじめ行為によって命を失うことの重さと解決への想いを発表しました。能勢町長賞の小谷麻菜美さん、豊能警察署長賞の原田朔弥さんにとっても、多くの人たちの前での授賞式は貴重な体験となったことと思います。

能勢町青少年町長表彰

昨年度より、スポーツや文化の面で優秀な成績を収めた19歳未満の町民を対象に能勢町青少年町長表彰制度が創設されています。

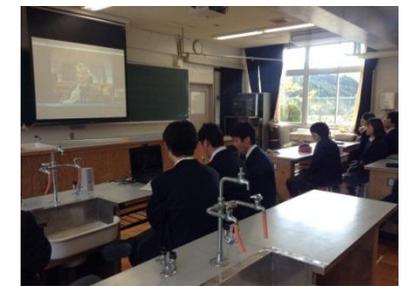
本年度は、卓球部の山本飛鳥(西中出身)さんが、実業高等学校総合体育大会、個人戦男子シングルの部で優勝しました。

この快挙を受け、山口町長より、能勢町議会議場内で表彰状の授与式がありました。その後、町長や森田教育長と卓球の話や、卒業後の進路の話等の懇談を行い、激励の言葉をいただきました。



関西外国語大学との高大連携テレビ会議授業

11月10日(月)「コミュニケーション英語I」の授業で1年生17名を対象に、生物教室で関西外国語大学の留学生たちと、高大連携テレビ会議授業を実施しました。この授業はテレビ電話で留学生とコミュニケーションをとることによって、学習した英語を実際に使い、英語学習のさらなる動機付けとすることを目的として、今回で3年目の実施となります。事前に、留学生それぞれとペアを組んでプロフィールを交換し、互いのインタビューでの質問事項を事前に伝え合いました。当日はそれぞれのペアで、インターネットテレビ電話を通じて、能勢高校生が留学生に、また、留学生が能勢高校生にインタビューを行いました。実施後に生徒たちは、「聞き取ることが難しかった。もっとコミュニケーションができるように英語の学習を続けたい。」といった感想を口にしていました。今後の英語学習の動機付けにつながる有意義な交流授業となりました。



テレビ電話を通じての交流の様子